



窪田ひろ子著

FEN

おもしろ事典



こんなことが知りたかった!!
FEN丸わかり、ひろ子の
とっておきレポート。





番町書房

F E N おもしろ事典

著者———窪田ひろ子

*

発行者———村川修二郎

発行所———番町書房

〒104 東京都中央区京橋 3-5-7 主婦と生活社内

電話 販売部(03)562-2651/編集部(03)271-1530

振替 東京 5-15844

印刷所———松濤印刷株式会社
太陽印刷工業株式会社

製本所———明泉堂

© Hiroko Kubota 1984 Printed in Japan ISBN4-8274-1233-2

* 落丁・乱丁はお取替えいたします。

* 本書の内容を小社に無断で複写複製することを禁じます。

FENおもしろ事典

定価700円

昭和59年11月30日 初版発行

著者 窪田ひろ子

発行所 番町書房

FEN

おもしろ事典

藤田ひろ子著



番町書房

FENおもしろ事典——もくじ

■PART☆1——マイFENレポート……………9

■ オフタイムの生活の中心・クラブ……………10
基地自体が完全な町

ラーメンもカツ丼も

飲酒運転もOK

ブランドまではつきり指定するのがアチラ流

クラブ内で脱帽を怠ると……

■ 外国暮らしに彩りを添えるハウスパーティー……………18

エスコート役がいないと肩身が狭い

大人の世界に子供は入れない

ラベンダーパーティ

さすがシツカリしているユダヤ系

■ ニューイヤーズイブパーティは正装できらびやかに……25

■ 基地内タクシー運転手は主婦のパートタイマー……29

■ 古着を売る人、買う人……33

■ 郵便制度上はアメリカ本土の一部……35

「兵隊サンを紹介して」なんていうのは無視

「速達」で出しても同じ

■ 異動命令より強い女房の意向……41

たいした用件もないのにこまめに電話

夫の職場に平気で出入りする妻たち

■ スポットアナウンスはアメリカを映す鏡……46

太りすぎて「規格」に合わなくなれば除隊

人種差別の深刻さが見え隠れ

もし日本だったら

■ 志願制で激増した女兵士たちの質は？……55

■ Coffee, tea or me ?.....	57
■ 日本人とはちょっと違う清潔感・不潔感.....	60
生ニンジンをかじる女将校 鉛筆がスプーン代わり	
■ 甘いもの好き.....	66
■ 体重管理官.....	68
■ オクロイ.....	73
■ グンタイ用語.....	75
■ “旅する鐘”と飛行機野郎.....	80
敵の大将の首よりも.....	
新年の訪れとともに消えた！ 犯人“横田”は知能犯	
■ “笑顔運動”に見る陽気なアメリカ人.....	89
オープンハウスに孤児を招待 チャリティ基金集めはお祭り騒ぎ エライ人ほどねられる	

危うく誘拐されるハメに

真冬の池に十五分間

ニワカ管制官となって飛行機を誘導

屈強の海兵隊の一日伍長

“給料”が善意の結晶

ハイライト・司令官の強歩

■PART☆2———MAIFENライフ……………111

■企画・原稿・録音・放送の一人四役……………112

■電話が自由にかけられない……………114

■唯一の日本人アナなので代役がない……………117

■イタリア系司令官に大感謝……………119

■かんとんに「キモノを着用せよ」といわれても……………121

■アメリカンサイズ……………125

■暖房の夏……………127

■ハタ目ほど楽ではない軍用機での出張……………130

■ 奇人、ウルフマン・ジャック	134
■ 天才、ホセ・フェリシアノ	139

■ PART☆3 — 東は東、西は西

■ トプシー タービー	144
-------------	-----

年が明ければ新年の挨拶は終わりたいして美人とも思えないが……
 タテか、ヨコか

左側は *wrong side* か

■ 可愛い女は魅力がない	151
■ サウスポーと箸	154
■ お寺と神社へ初詣に行くのはフォニー信者?	157
■ 相変わらず根強いフジャマ、ゲイシャのイメージ	161
■ どっちが悪い?	165
■ エクセトラ	170
■ アメリカ人の英語はつねに正しいか?	

■ ヒロシマ……………173

戦争の爪跡は見たくない？

■ PART☆4——私の日本語再発見……………177

■ 朝霞基地は大阪にある？……………178

遊女レクリエーションセンターはどこだ？

■ 万能語「どうも」は英訳不能……………182

■ 「小」をつける……………185

■ 男ことば、女ことば……………188

■ サージェント少佐とメイジャー軍曹……………193

■ 「ん」の話……………198

「雨の中」と「雨ん中」

タケムラケニチさん

PART☆1

マイFENレポート



☆☆☆

オフタイムの生活の中心・クラブ

基地自体が完全な町

在日米軍基地は、一つのアメリカの町のようにもなっている。なぜ「にも」かというと、米軍の基地である以上、当然そこには滑走路だとか船のドックだとか格納庫だとか、軍の司令部、補給部、その他もろもろの軍隊の施設を備えた上での「町」だからである。

一つの町のようにもなっているから、そこに居住する軍関係のアメリカ人は、極端に言えば、基地から一步も出ることなく生活ができる。

ちなみに、その「町」である基地内には、次の設備がすべてととのっている。

官舎（家族用、独身者用、出張など一時宿泊用）、総合病院、犬猫病院、銀行、郵便局、消防署、憲兵隊、教会、保育所、学校（小、中、高）、体育館、ガソリンスタンド、映画館、法律事務所、図書館、自動車修理工場、身分証明書等発行事務所、電話局、ゴルフコース、ボウリング場、プール、赤十字、将校（士官）クラブ、下士官クラブ、軽食堂、公園、野球場、食料品店、食料以外の百貨店、ホビーショップ、青少年センター、理髪店／美容院、タクシー。

以上でわかるように、生活していくのに必要な施設はすべてととのっているといっている。詳しくは述べなかったが、自転車や家庭用品の修理部、古着店、家具店などもあるわけであるから、彼らはいつも新品を買っているわけではないのである。

さてここでは、日本人には馴染みがうすいが、いかにもアメリカ的な組織、クラブの話をしよう。

基地内には普通、最低で二つのクラブが存在する。将校クラブと下士官、つまり兵のクラブである。アメリカはすべて平等、といっても、軍隊ではそうはいかない。階級によってクラブがはっきり分けられている。

Officers' Club 将校クラブに出入りを許可されているのは将校、つまり士官とその家族、友人、それに軍属と呼ばれる、軍服を着ていないが、軍籍にあり、米軍で仕事をしている人たちとその家族及び友人である。

下士官クラブは Non Commissioned Officers' Club 略して N. C. O. Club と呼ばれ、ここはいわゆる兵隊さんとその家族及び知人の利用するクラブである。下の階級の人々は上の階級の人々のクラブを利用することは許可されないのは当然といえば当然かもしれないが、上の階級の人々も、自分たちより下の階級のクラブへ出入りできないのである。

さて、これらクラブの設備について述べると、まず食事のできるメインダイニングルームと、

たいてい小さい食堂とがある。メインダイニングルームには、ダンスフロアとステージがついており、週末の夜など生バンドの入るクラブもあるが、現在は費用の関係で、テープを流していることが多い。

日本でいえば貸宴会場にあたる貸パーティールームもある。ここは送別会、昇級会などに使われる。

陸軍と空軍のクラブにはないが、海軍と海兵隊のクラブには、クラブ内にゲームルームがある。ゲームの種類はというと、ほとんどスロットマシンである。なぜか陸軍と空軍ではクラブ内にスロットマシンを置くことを禁じている。

クラブでは、円の両替のサービスもする。そして煙草と酒類の販売もしている。

士官クラブと下士官クラブでは、設備や料理、飲みものなどの値段も違っている。将校クラブのほうが、はっきり言ってすべて上等にできており、料理や飲みものの値段は高いが、味もよい。クラブは朝七時ごろから開いているが、独身者が全員クラブで朝食をとるとは限らない。宿舎で簡単に自分で作ったものを食べる人、職場へ出てから持参のドーナツや菓子パンですませる人もいる。

昼食時は、独身、既婚者を問わずクラブへくる。しかし昼食もまた、自宅へ帰って奥さんと一緒に食べる人、サンドイッチ持参で職場へくる人もいる。なにしろ職場も自宅も基地内にあり、

車で五分もかからないで家へ帰れるのだ。

ラーメンもカツ丼も

とはいえ、クラブは昼食時、かなり人が入る。日本の自衛隊と基地を共同使用している場合、アメリカ人が、自衛隊員及び基地に働く日本人従業員用の小さい食堂に入ってくる。このタイプの食堂は、通常、日本人食堂と呼ばれ、建物も木造のかなりお粗末なもので、十四、五人も入れば一杯というのものもある。メニューはといえば実に庶民的なものばかり。ラーメン、チャーハン、やきそば、ギョウザ、カツ丼、カレーライスなど。味のほうは、これまた日本の町場の食堂のと同じあるいはそれ以下、といったところ。これらの中華、あるいは日本の食べものを、アメリカ人は Japanese food の典型だと思っているケースが多い。この他の日本食を一切食べた経験がないからである。

飲みもののほうは、酒税をはじめ、米軍籍のアメリカ人は無税の特典があることから、減法安い。基地内のクラブのバーやカクテルラウンジに、午後四時を過ぎると、客が集まりはじめる。なぜこのような早い時間に人が飲みにくるかという点、基地内の勤務時間がわれわれ日本人のそれと異なってくるからである。彼らの始業時間は、空軍なら通常七時半。陸軍の基地は比較的遅く、といっても八時がふつう。日本の会社のように九時始業というのはあり得ない。

始業時間が早ければ終業時間も早くなる。というわけで、四時十五分になると、本日の勤務終わり、という将校や兵隊がいるわけで、それでは帰りにちよいと一杯、ということになる。

飲酒運転もOK

基地内はほとんどの人が車で移動する。シャトルバスという循環バスもあるにはあるが、車をもっている人はまず乗らない。

仕事が終わると車でクラブへ行く。そしてそこで一杯やる。当然飲酒運転で自分の家へ帰るわけだが、よほどの酔っぱらい運転でもない限り、憲兵にも捕まらない。基地の外へ車で出るときは、日本の飲酒に対するきびしい交通法規は日本に着任した際、よく米軍側から教えられているから、「飲んだら乗るな」をかなりよく励行しているようである。

さて、食事の前、アメリカ人がお酒を飲む習慣、これは日本の習慣、というかサラリーマンなどが帰宅途中に一杯、というのとどのように違うのであろうか。

私がこれまで双方を見てきたところでは、基地のアメリカ人は、日本人と比べて早い時間から「食前」にお酒を飲み、六時半から八時ごろの間に夕食をちゃんととる。片や日本人のサラリーマンだと、六時ごろから飲み始め、飯に二〜三時間で引き上げて帰宅するとしても、帰宅してからアメリカ人のようにちゃんと夕食をとらないようである。食べたとしても軽くお茶漬けを一杯、

というところではないだろうか。

このことは、日米の「つまみ」、つまり酒の肴さかなの相違を示す。日本人はアメリカ人に比べて飲酒中、よく食べる。そしてその種類も多い。アメリカ人は、クラブで夕食前に飲むとき、せいぜいポップコーンぐらいしか食べない。料理したものはおろか、チーズやサラミのような簡単な酒の肴さえ食べない。彼らが夕食をとる前に料理をしたものを酒といっしょに食べるのは、立食パーティのときぐらいなのである。

私はポップコーンだけのクラブでお酒を招かれ、お酒がまわって仕方がない、といった経験は数多い。日本人には合わない飲酒の習慣かもしれない。

ブランドまではっきり指定するのがアチラ流

飲酒の習慣についていえば、飲みものの嗜好しこうをアメリカ人は、日本人よりはっきり言う。例えば、日本人がウイスキーを飲む場合、単に水割りとか、オンザロックとしか言わない。サントリリーザープの水割りだとか、ニッカゴールドの水割りとまでは指定しない。ビールも同じである。誰も「サッポロ二本」とか「キリン三本」のような注文のしかたはしない。

アメリカ人は違う。クラブのバーで彼らの飲みものの注文を見ているとこんなふうである。

「IW・ハーバー（バーボン）のソーダ割り」